

▼エゾホトケ



▲エゾカンゾウ

▼オオジシギ(レッドデータ種)



▲イバラトミヨ

▼センダイムシクイ



▲ヒオウギアヤメ



▲ミズゴケの遺体が堆積してきた小丘・ハンモック

キウシト湿原で確認された動・植物



▲市民会議『キウシト湿原を考える会』の様子

◎写真提供：ふるさと自然情報局

湿原をふるさとの環境保全のシンボルに

※4 高層湿原：水面よりも高く泥炭が堆積し、貧栄養に耐えられる植物が発達した湿原。一方、水面よりも低い位置に泥炭が堆積し、富栄養の水が流入するのが低層湿原。高層湿原と低層湿原の間に位置するのが中間湿原。

「キウシト湿原を保全するだけでも、意義のあること。しかし、これだけの貴重な自然ですから、利活用も考えるべきではないでしょうか」と湿原の保全に加え、市民が利活用できる空間としての整備を提案するのは、『ふるさと自然情報局』の堀本宏さん。



堀本 宏さん

『ふるさと自然情報局』は、『キウシト湿原調査報告書』の作成をはじめ、ふるさとの自然に関する知識を深め、情報発信やその保全を図ろうと活動している市民団体で、堀本さんは代表として活躍されています。

「この湿原は、子どもの自然体験の場となり、そしてふるさとの自然や地史を学ぶ上でも、貴重な教材になります。保全に加え、利活用できるように整備し、市民のみなさんに潤いややすらぎの場として還元できたら、ふるさ

とへの愛着や帰属意識が高まるのではないのでしょうか。広く市民のみなさんに、湿原の保全・利活用の必要性を理解していただき、キウシト湿原がふるさとの環境保全のシンボルになると素晴らしいですね」と堀本さんは、湿原の整備に期待を寄せます。

湿原の保全と利活用には何より市民の理解が必要

それでは市は、この湿原の保全と利活用をどのように進めていこうとしているのでしょうか。

「キウシト湿原は、専門家や市民団体の調査・研究などで保全上の価値が明らかになってきました。その一方で、湿原を保全し、利活用するためには、多くの地権者からの土地の買い取りや施設の整備が必要となり、数億円の事業費を投入しなければなりません。そのお金は、市民のみなさんに収めていただく税金で賄うこととなります。何より市民の理解が必要ですね」と話するのはキウシト湿原の整備計画を担当している都市計画課係長の松崎留雄さん。



松崎留雄さん

市は、昨年からのこの湿原の整備に向け、広く意見を聞くため、市民会議『若山町の湿原を考える会』（今年6月

に『キウシト湿原を考える会』に改称)の参加者を公募し、整備計画の素案づくりを進めています。

「市民会議では、専門家の講演やグループ討論などを経て、議論を積み重ね、整備の手法や課題と方向性を整理してきました。今後は、市民会議のみなさんにより踏み込んだ検討をしていただき、検討の経過と内容を市民のみなさんに広くお知らせしていきます」と松崎さんは、整備計画策定の進め方などを説明してくれました。

キウシト湿原を未来の市民へ引き継ぎたい

私たちは、その時代の価値観と必要性の中、大切な自然を失ってきました。しかし、今、時代は大きく変化し、恵み豊かな自然環境を掛け替えのない財産として守り育てていくことが求められています。

キウシト湿原は、私たちに自然との共存・調和のあり方を問いかけているのではないのでしょうか。

私は、キウシト湿原が自然の大切さを学べる憩いの場として整備され、市民みんなが親しみの感じられる財産として、未来の登別市民へと引き継がれてほしいと思います。

キウシト湿原についての問い合わせ

都市計画課

(☎)4115

あなたも市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをリポートしてみませんか。平成14年度市民リポーターについての申し込み・問い合わせは情報推進課(広報広聴) ☎6586(まで)。